

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム ひらき		
所在地	宇部市開 1丁目 740 - 1		
電話番号	0836-29-5050	事業所番号	3570200851
法人名	社会福祉法人 むべの里		

訪問調査日	平成 22 年 2 月 12 日	評価確定日	平成 22 年 5 月 20 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	8 人	常勤 5 人 非常勤 3 人 (常勤換算 6.4 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 27,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	月 1,000 円
その他の費用	月額	11,000 円		
	内訳	光熱水費 11,000円 別途 通信費 2,000円(年間)		

(4) 利用者の概要 (1 月 30 日現在)

利用者数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
	要介護 1	1	要介護 4		
	要介護 2	5	要介護 5		
	要介護 3	3	要支援 2		
年齢	平均 87 歳	最低	81 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 むべの里診療所、西村クリニック
	歯科 ほかお歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点) 法人独自で介護支援専門員や介護福祉士の養成研修を実施し、資格取得の支援をしておられます。協力医の月2回の往診、3ヶ月に1回の検診や月1回の往診での皮膚科の爪切り、歯科医の口腔ケアや年1回耳鼻科の耳垢取り等、一人ひとりの健康管理をされています。ヘルパー実習、専門学校、短大生の実習受け入れ、中高生の体験学習や園芸科の高校生と一緒に園芸教室を系列の4グループホーム合同で実施するなど事業所への理解を深めるための交流に取り組んでおられます。
(特徴的な取組等) ケアハウス、デイサービスセンター、障害者授産施設等の併設施設があり、ケアハウスの住民との交流やデイサービスの行事へ参加されており、授産施設関連でのパン、豆腐、野菜等の販売日には近隣の方が買い物に来られたり、利用者も買い物することが出来て、交流、楽しみ、潤いのある生活への支援につながっておられます。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況) 前回の課題である応急手当や初期対応の定期的訓練の実施については看護師指導で緊急時の対応についての勉強会を1回実施すると共に、ミーティング時にマニュアルに基づいての話し合いをされています。
(今回の自己評価の取組状況) 全職員に評価の意義を説明され理解された後、自己評価書をコピーして渡し記入され、会議で検討後に管理者がまとめておられます。職員はもっと寄り添うケアや言葉使いの反省など、見直しや振り返りとされています。
(運営推進会議の取組状況) 2ヶ月に1回、家族会を兼ねて運営推進会議を開催しておられます。利用者全員、家族、地域包括支援センター職員、ケアハウス利用者、地域相談員のメンバーで外部評価の報告、合同運動会等の行事予定や報告で意見交換され、新型インフルエンザ等の緊急対応の勉強会をしてサービスの質の向上に努めておられます。
(家族との連携状況) 毎月発行のホーム便りと家族便り(金銭出納の報告と担当者からの状況報告)と一緒に写真や領収書を送付され、面会時や電話で報告されたり要望を聞いておられます。家族便りでは運営推進会議や家族会への案内や職員の異動等をお知らせしておられます。
(地域との連携状況) 法人の秋祭りには隣接地域の自治会長、婦人会の方々がボランティアで手伝いをされ、近隣の方や子ども達が参加して交流されています。ホーム便りを第三者委員、地域相談員、詩吟教室の指導者、ケアハウスの方々にも配布しておられます。中高生の職場体験、民生委員の見学、短大生、専門学校生、ヘルパー2級の実習の受け入れやデイサービスの利用者との交流などしておられます。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>「地域の中で生き生き暮らせるホームを創る」などの事業所独自の理念を話し合って作成している。</p>	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>目標達成の為の行動指針に「基本理念の確認と理念唱和時には内容を意識する」を入れて、管理者と職員は理念の共有に努め、日々のケアに取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>ケアハウス、デイサービス、グループホームがひとつの自治会となっている。法人の秋まつりには隣接地域の自治会長、婦人会の協力があり、近隣の人々や子ども達の参加がある。詩吟教室の発表会にも参加して、交流にも努めている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>全職員に評価の意義の説明後、自己評価書をコピーして全職員が記入し、会議で意見交換をして、管理者がまとめている。もっと寄り添うケアや言葉づかい等職員の見直しや反省につながっている。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>2ヶ月毎の開催で、全利用者、家族、ケアハウス利用者、地域相談員のメンバーで外部評価についての報告、緊急時の対応についての勉強会、合同運動会等の行事について意見交換して、サービスに活かしている。</p>	
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>社会福祉課とは生活保護についての相談や情報交換、介護保険課との連携や情報交換でサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月のホームだよりや家族だより(金銭出納と個人の状況報告、運営推進会議等の案内、職員の異動等)を領収書や写真と一緒に送付している。合同運動会、クリスマス会等の行事に参加している。面会時や電話で報告したり意見や要望を聞いている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族会や面会時、電話等で意見や要望を聞くように努めている。相談、苦情の受付窓口、担当者、第三者委員、外部機関を明示し苦情処理の手続きを明確に定めている。運営推進会議に出席した家族からも意見をもらうようにしている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	希望休を聞いてシフトを作成し、行事等には増員をするなどの対応をしている。急な休み等には公休出勤で対応し、夜勤時はケアハウスの宿直の協力や支援がある。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職や異動は最小限に抑える努力をすると共に、替わる場合は、日勤1週間の重複で夜勤は1ヶ月～1ヶ月半経った後に3回の重複勤務で、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人の管理者研修(年4回)やキャリアアップ研修を実施している。外部研修は勤務の一環として参加し、復命書を提出している。また、日々働きながらのトレーニングをしていくことを進めている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に管理者、職員が参加し、ブロック研修会にも管理者、職員が研修、交流会に参加している。法人の5グループホームとの情報交換や訪問等でサービスの質を向上させていく取り組みをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>自宅を訪問したり、本人や家族が見学に来るなど徐々に馴染めるよう工夫している。デイサービスからの利用や法人のケアマネジャーからの紹介での利用、施設や病院からの利用者に対しては面接に出向き顔馴染みになる等の工夫をしている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>利用者から生活の技や調理方法を教えてもらったり、職員の悩みについて労わりの言葉をかけられてほっと安心したり、互いに感謝の言葉をかけ合い支え合う関係を築いている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の言動や夜勤時の寄り添いなどで希望や意向の把握に努め、家族や関係者からの情報を得て一人ひとりの生活歴の情報を増やすようにしている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>月1回のケア会議やひらき会議を職員全員で開催し、日々のケース記録や連絡帳、受診結果等の確認をして担当者が原案を作成し、全員で検討後に計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月に1回のモニタリング、評価、見直しをしている。変化が生じた場合には、本人、家族に説明し意見を聞いて、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>医療連携体制を活かして、受診通院介助支援、往診の支援等柔軟な支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力医と本人及び家族の希望するかかりつけ医で医療を受けられるよう、家族と協力し通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうケースもあり、歯科、皮膚科、耳鼻科などの医療機関と関係を密にしている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	状況の変化に応じて段階的に話し合いをすることを入居時に説明しており、重度化や終末期に向けたマニュアルも作成し、安心してサービスが利用できるよう職員も共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	日々の関わり方を管理者やサブリーダーが点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。記録は目に付かない場所に保管している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な1日のパターンはある程度決まっているが、就寝、起床、食事時間、入浴時間など、その日の利用者の希望にそって支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝食は事業所で調理、昼食、夕食は配食である。盛り付け、片付けは一緒に行い、食事は一緒に和気あいあいと食べている。1ヶ月に1回は外食をしている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	毎日15時～17時に入浴でき、利用者のその日の希望を確認し、入浴支援をしている。入浴剤や薬風呂で変化をつけたり、シャワー浴、清拭、足浴などの対応もしている。失禁などで必要時には就寝前にも対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	園芸、草取り、ゴミ出し、洗濯物干し、盛り付けなどの活躍できる場面づくりや詩吟、ぬり絵、習字、毛糸のマフラー作り、ボーリング、魚つりゲームなどの楽しみごとや気晴らしの支援をしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、日光浴、月1回の夕食、花見(梅、桜、菖蒲など)、初詣、系列の他のグループホームへ訪問など、その日の利用者の希望にそって、戸外に出かけられる様支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	全職員は勉強会等で身体拘束によって利用者が受ける弊害を理解し、拘束のないケアを実践している。言葉や薬による拘束についても正しく理解している。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけることの弊害について理解している。外出傾向の強い利用者に対しては職員の見守りや事務所、デイサービスの職員、ケアハウスの住民の協力など、安全に対する工夫をしながら、鍵をかけないケアに努めている。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリはっと・事故報告の記録を整理し、事故発生原因について話し合いを行うと共に共有に努め、家族にも説明して一人ひとりの状況に応じた事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事故対応マニュアルの作成や年1回の救急手当での研修を実施している。全ての職員が対応出来るよう応急手当や初期対応の定期的訓練はしていない。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	法人の合同訓練(夜間想定を含む)を実施している。運営推進会議のメンバーである地域代表との連携で緊急時の支援や協力の呼びかけの体制が出来ている。地震時の避難場所(前の広場)となっており、備蓄の準備もしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	一人ひとりが使用している薬の情報をファイルして、職員は副作用、用法、用量等についても理解しており、配薬は2回の確認、服用は手渡して確認をしている。必要な情報は医師、看護師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。歯ブラシの消毒は週1回程度、義歯は毎日の消毒、口腔ケアの往診は月1回で、診療結果の情報提供書を家族に送付している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量を記録し、病状のある利用者については看護師、栄養士と話し合っており対応している。また、時間のかかる利用者に対しての対応の工夫をしている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症マニュアルを作成し、手洗い、うがいの励行、ペーパータオルの使用、手指の消毒、1日1回の手すりの消毒等で予防を実行し、インフルエンザの予防接種は利用者、職員とも接種済みである。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間は不快な音や光はなく、ソファやテーブル、観葉植物が置かれ、利用者と一緒に作成した季節に応じた飾りや行事の写真、習字が展示されたり、お雛さまが置かれていたり季節を感じると共に、台所や食堂からは五感に働きかける刺激を取り入れて、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	一人ひとりの生活に場として、馴染みのテーブル、椅子、衣装ケース、ラジカセ、テレビ、時計や家族の写真、遺影、自身の作品、造花、日めくりカレンダー、鉛筆立てなどが持ち込まれており、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホームひらき
所在地	〒755 - 0096 山口県宇部市開1丁目740 - 1
電話番号	0836 - 29 - 5050
開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日

【サービスの特徴】

グループホームひらきは、近くに常盤公園があり、遠くは美祢や九州の山々が一望できる高台にあります。同じ敷地内には、むべの里ケアハウスひらき、障害者授産施設あゆみ、障害者グループホーム、あゆみのパン・野菜類販売所、喫茶ゆうゆう庵等が併設され、普段散歩や買い物、などの楽しみがあります。各施設・地域の皆様との交流の中で、開かれたグループホームとして日々笑顔多く、心身の健康を見守りながら安心して「人生の主演」として生き生きとした暮らしが出来ます事を目標に支援して参ります。

【実施ユニットの概要】 (1 月 30 日現在)

ユニットの名称	グループホームひらき		
ユニットの定員	9 名		
ユニットの利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
	要介護 1	1	要介護 4
	要介護 2	5	要介護 5
	要介護 3	3	要支援 2
年齢構成	平均 87 歳	最低 81 歳	最高 94 歳

【自己評価の実施体制】

実施方法	グループホーム職員(常勤5・非常勤2)と事前に各自が自己評価レジメをチェックして、グループホームの会議の場で一緒に検討しながら作成しました。
評価確定日	平成 22 年 1 月 30 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		<p>広く隣近所との付き合いを増やしていきたい。</p>
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	GH会議で、全員で取り組んでいる。運営推進会議で報告し、改善策にも相談している。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	21年度利用者全員参加され、家族全員案内して、全員で取り組んでいます。	年6回は、課題の取り組みや利用者も年々困難となっている。
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	会議時に相談し、課題解決出来る様にしている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	研修などで学ぶ機会があるが、まだ活用する様な支援を行っていない。	今後職員は、機会あれば、勉強して行きたい。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内で人権について、虐待防止の手順書、身体拘束に関する手順書等で学ぶようにしている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時や退所時は、家族等に十分な説明し、又、段階的に期間をもうけ、理解、納得していただく様に努めている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、不満、苦情あれば充分受け止めて、運営に反映させる様に努めている。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、家族便りに心身の様子、預かり金報告、領収書、ひらきだよりでその月の行事、全般のことを報告し、行事写真を同封し、利用者の様子が報告出来ること努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	要求があればすぐ応じる様に整理出来ている。又、心身の様子を記録等開示し、説明に努めている。		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	契約時、重要事項の説明書で充分説明し、意見や不満、苦情等が表せる様な雰囲気作りに心掛けている。		第三者委員、外部機関を明示している。運営推進会議において、市・地域代表と家族で要望など話し合っていた。
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者は、利用者の様子を伺ったり、職員の意見、相談を聞く機会を持つこと心掛けています。		管理者会議等で、意見や提案を聞く機会がある。
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者や家族の状況により、柔軟な対応出来ること、勤務調節等で努めている。		必要時に合わせた勤務を変更して柔軟に支援している。
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	人事異動は本部の管理の為、むづかしい面もあるが、利用者へのダメージを極力防ぐ配慮に努めている。		本部人事担当者との相談、意見を出し合っている。
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	むべの里独自の管理者研修(年4回)受け、又、学んだことを職員に反映出来る様に努めている。		法人内での研修に外部より講師招いてキャリアアップ研修/ケアマネ・介護福祉士養成研修実施参加出来る体制している。
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	40代、50代、60代の職員配置で利用者の個々の対応に柔軟に努めている。		現在入居利用者は、男性職員受け入れは不可能な為、以前の様に、男性職員配置に取り組みたい。
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所グループホーム連絡会を始め、研修等で同業者との交流の機会を図っている。		むべの里5グループホーム交流図り、運動会、園芸教室、運営推進会議等で実施している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		休憩場所の確保はむづかしいが、お互いに一息出来る時間の配慮に努めている。
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		職員の資格取得に向けた支援がなされている(講習、技術介護研修実施されている)。
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		契約前より家族等が抱いている不安や思いを話し合うようにしている。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		契約前より家族等が抱いている不安や思いを話し合うようにしている。
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		入所以来一度も帰宅なく、帰って見たい思いを家族に相談して実現出来安心された。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		利用者より意見や希望を伺い、実施するようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		家族の協力や来園も多い(一部の家族以外)。
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		毎月写真が楽しみ、園での様子がよくわかると家族から喜ばれる。
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		家族との外出、来園も以前より多くなった
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		職員の見守りで、孤立しない様に取り組んでいる。利用者同士のおしゃべりも多くなった
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		来園時や利用者の支援で情報が必要な時、必ず協力していただく。
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		申し送りやケース記録により、その時々を把握した上で生活のリズムに合わせて、一人ひとりに合わせた暮らしを送れる様に気をつけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月1回、ケアプラン会議実施で、職員全体で取り組み、又、家族や関係者にも良いアドバイスをいただく時もある。	同席は、時間帯もあり難しいが、事前に話し合う機会がある。
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	新たな介護変化が生じた時は、その都度、会議を開き、臨機応変に対応出来る事を話し合う様にしている。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のケース記録等の情報を共有し、ケアプランに生かしていると思っています。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	その時々々の要望に応じ、本部(各事業所等)等、相談の上、柔軟な支援を図っている。	多種部署あるため、要望に応じて相談しやすい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	各行事ある場合、案内をし、参加いただける様にしている。防災訓練にも消防署や地域の方にも協力いただく。	年々地域の方の来訪多くなっているが、利用者ともっと地域の中に出掛ける様にしたい。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	常時開放し、来園者も多くなっている。職場体験学習で短大・高校・中学・小学校引き受け・父兄会、各団体の来訪者ある時、利用者に対応され、喜ばれている(認知症についていつでも説明出来る様に図っている)。	地域に向けて発信のひらき便りを継続して行きたい。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じ、訪問サービス(歯科・皮膚科・耳鼻科・美容室)を利用している。	月1回足のつめきり、口腔ケア全員実施中

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		2名は家族対応で、月1回検診実施中
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>申し送り時、介護理念唱和し、職員全員が意識的に充分気をつけている。個人情報の取扱いは、いつも気をつけている。</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>訴えある時や思いは、傾聴に時間と取り、しっかり説明し、納得していただく様に努めている。</p>	<p>家族へ電話して協力もお願いしている。</p>
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>毎日の家事一般は、個々人利用者の出来る力を発揮出来る様に支援している。</p>	<p>個人差もあり、全ての利用者の出来る力を発揮する場合はむづかしいが出来ることを少しでもしていただいている</p>
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員勤務対応で1日のパターンがある程度決まっているが、就寝・起床、食事時間は、マイペースで過ごされている。</p>	<p>職員体制もあるが、もっと一人ひとり寄り添う支援していきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>訪問美容室、家族対応で一緒に買い物、外出など実施されている</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>毎食の準備、盛り付け、片付けは一緒に行っている。お茶の時間・昼食時間は職員も一緒に楽しんでいる。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>毎日お茶の時間は、利用者一人ひとり希望を聞いて、一緒に準備、配膳して楽しんでいただいている。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄パターンでその都度、声掛けやトイレ誘導、介助実施している。</p>	<p>3名:布パンツ、6名:紙パンツ 使用</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	職員の勤務体制により、一人ひとりの希望の時間はむづかしいが、15時から17時の間、入浴毎日実施し、希望者は毎日楽しんでおられる。入浴剤や薬風呂など変化をつけています。		失禁等特別な場合は就寝前入浴あるが、職員体制上、他利用者の見守り不可能で危険もあり希望時の入浴は不可能です
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	日中、夜間問わず、希望に合わせて休息や入眠出来る様に支援していると思います。		(夜間安眠むづかし利用者は)眠剤を希望の時間服用されて、夜間安心して眠れる工夫している。(2名服用)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個人の出来る能力に合わせ、活かせる場所作りや楽しみごと等支援していると思います。		ADL、認知度の低下や、職員体制で無理な場面も多い
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の了解が得られる利用者は、お金を所持されています。お金に対し、不安持たれている利用者は納得される様に職員が対応しています。		ほとんどの利用者は、家族より預り金として預り、必要時に支払い、月1回収支決算と領収書を渡しています。
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	雨以外は毎日、広場への散歩は日課となっている。雨天の場合は、2～3階へ散歩をし、ケアハウスの方と雑談楽しめる。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族と一緒に外出、外泊(お正月)に買物等、また園芸教室で他事業所まで外出実施、月1回外出・外食も実施している。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由にいつでも電話や手紙のやり取り出来ることを支援している。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来園者多く、コーヒーなど用意し、ゆっくりと団欒いただける様な環境作りしている。来園者も満足されている。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	急に宿泊されても、寝具、食事、準備出来ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73 家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	各行事には、必ず参加を呼びかけ、一緒に楽しんでいただけるようにしている。		家族会、お祭り、合同運動会、運営推進会議、クリスマス会、外出・外食等
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	各外部研修やひらき会議等で理解し、話し合いの中、抑制や拘束のないケアに努めている。		
75 (28) 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	徘徊の強い利用者1名の為、玄関のみ内から開かない様になっている(外からは自由に入出入り出来る)。他は、極力鍵を掛けないケアに努めている。		全て開放出来、自由に入出入り出来る体制が一番の希望です
76 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	各居室はすべて利用者を見守りやすい設計で昼夜を通し、さりげなく利用者の様子を見守りしている。		
77 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に合わせ、注意が必要な物品は管理し、必要に合わせ、危険防止に努めている。		
78 (29) 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	定期的な防災訓練参加に、事故防止について事故報告書、ヒヤリはっつに関する報告、記録により再確認を話し合い、事故防止に努めている。		ベランダ側の非常口にスロープ設置で車いすの対応も可。GH独自の訓練も増やしたい。
79 (30) 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	月1回ひらき会議で技術研修の実施もある。、もっと定期的な応急手当等の習得を図りたい。		訪問看護師にも必要時、相談・指導受ける
80 再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっつ報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故発生原因を探り、再発防止の為の話し合いを行うが、今後に活かすまでの職員間の意識付けが不十分である。		特に夜間帯1人での事故発生対策を図りたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		薬の変更は、連絡帳に詳しく記入し、職員全員が共有している。
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		21年度から次亜塩素酸水で消毒実施。加湿器にも対応中です
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	アプローチは、プランター等で四季の花を植え、玄関入口内に行事等の写真掲示し、出入りしやすく、又日常生活の様子が一目で解っていただける様に工夫している。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	フロアの空間スペースに観葉植物や雑誌、本、行事の写真に季節ごとの飾りで季節感を取り入れている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファやテーブルより、TV観ながらおしゃべりや玄関口ベンチを自由に利用され、思い思いに過ごしていただける工夫をしている。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	一人ひとりの生活の場として、馴染みの家具や椅子、仏具を配置され、居心地よく過ごせる様に工夫されている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気や温度調節は、心地よい生活ができる様に配慮している。	昨秋より次亜塩素酸水入りの加湿器に他2台可動により、湿度・におい・ウイルス対策を実施中です。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	グループホーム全体がバリアフリーとなっている。浴室やトイレ、玄関外スロープに手すり等、居住環境が配慮されている。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各居室に名前、トイレ、浴室など、一目でわかりやすい表示をし、不安や混乱を招く要因に気をつけ、本人の状態に合わせた工夫に努めている。	非常口としてベランダも利用する。
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダは、一緒に洗濯物干しに利用し、季節ごと、ティータイムやソーメン流し、スイカ割りなど大いに活用している。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1/3くらいと	家族の2/3くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1/3くらいが	職員の2/3くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1/3くらいが	家族等の2/3くらいが ほとんどできていない